

シンハラ語の非能動複合動詞

デ シルバ K. G. K., 宮岸 哲也

Inactive Compound Verbs in Sinhala

De SILVA, K. G. K., Tetsuya MIYAGISHI

要 旨

シンハラ語には「する」に相当する*kəṛəṇəwa*を持った複合動詞があり、これに対応する複合動詞として、*wenəwa* (なる) 複合動詞と*kerenəwa* (される) 複合動詞の二つが存在する。そして、*wenəwa*複合動詞は内発性による動作・状態を表すのに対し、*kerenəwa*複合動詞は外的な要因による状態を表す。

キーワード：非能動動詞, 外的要因, 内発性

1 はじめに

シンハラ語は、インド・アーリア語派の言語で、屈折語的SOV型言語の特徴を有する。シンハラ語には日本語の「する」と「なる」に相当する*kəṛəṇəwa*と*wenəwa*の対があり、それぞれ本動詞として用いられるほか、複合動詞としての用法もある。共通の前項要素を持つ*kəṛəṇəwa*と*wenəwa*の複合動詞のペアは、他動詞と自動詞や、意志の有無で対立関係があることが従来から指摘されている。

その一方で、*kəṛəṇəwa*複合動詞の中には、更に受動動詞化した*kerenəwa* (される) による複合動詞をペアとして持つ場合もある。口語シンハラ語には「太郎が次郎に殴られた」のような典型的な受動文がなく、受動動詞は専ら主語の能動性の低さを表すために用いられる。*kerenəwa*複合動詞もこれと同様の特徴を有している。

結果として *kəṛəṇəwa*複合動詞には、能動性の高低で対称的な関係を持つ複合動詞として、*wenəwa*複合動詞と*kerenəwa*複合動詞の二つが存在することになる。問題は能動性の低さを表すこの二種類の複合動詞が、同じものなのか、異なるものなのか、そして、異なるものであるならば、何がどのように異なるのかが、よく分かっていないことである。本論では、*kəṛəṇəwa*複合動詞を能動複合動詞 (active compound verbs) とする一方、*wenəwa*複合動詞と*kerenəwa*複合動詞をいずれも非能動複合動詞 (inactive compound verbs) と位置づけ、この二つの非能動複合動詞の関係性の不明点を明らかにすることを目的に論考していくものである。

2 先行研究

2.1 Gair (1970)

Gair (1970: 46) では、複合動詞 (Phrasal Verbs) の後項要素 (final element) になる動詞として *kəranəwa* と *wenəwa* を挙げ、*matak kəranəwa* (思い出させる) と *matak wenəwa* (思い出す) の例を示しながら、形容詞語幹 (adjective stem) がこれらの動詞についての複合動詞のペアが変形規則的に関連付けられることを述べている。そして、*kəranəwa* が主格名詞の動作主をとる構文になるのに対し、*wenəwa* は主語が後置詞 *atin* を伴った名詞になる (以下 *atin* 名詞句と呼ぶ) 構文になることを¹⁾ a.b. の例により示している (Gair 1970: 121)¹⁾。このように、*kəranəwa* と *wenəwa* が共通の形容詞語幹を持つ複合動詞が相互に関係性を持ち、それぞれの動詞が述語になる文の間の規則的に変形されることを指摘しているが、両者の具体的な関係性の中身については、特に言及せず、更なる研究が必要であると述べることに留まっている (Gair 1970: 121)。

- 1) a. *dostərə asəniipe hoⁿdə kəraa-wi.* (Gair1970: 121)
 医者 病気 良い する-だろう
 医者が病気を治すだろう。
- b. *dostərə atin asəniipe hoⁿdə wee-wi.* (Gair1970: 121)
 医者 ATIN 病気 良い なる-だろう
 医者によって病気が治るだろう。

また Gair (1970: 121) では、*kəranəwa* 複合動詞が受動動詞 *kerənəwa* に変わると、以下のような疑似受動文変形規則 (passive quasi-transformation) を受け、主語の主格名詞が *atin* 名詞句に変わることを指摘している。そして、*atin* 名詞句を取ることを根拠に、*wenəwa* 複合動詞構文との類似性があることを述べている。

- 2) a. *ee guruwəryə ohe-tə sinhələ akuru liyannə puluwan kəraa-wi.*
 その教師 2.SG-DAT シンハラ 文字 書く できる する-だろう
 その教師はあなたをシンハラ文字が書けるようにするだろう。
- b. *ee guruwəryə atin ohe-tə sinhələ akuru liyannə puluwan kəree-wi.*
 その教師 ATIN 2.SG-DAT シンハラ 文字 書く できる する.PASS-だろう
 その教師によって、あなたはシンハラ文字が書けるようになるだろう。

(上記の2例はいずれも Gair1970: 121)²⁾

Gair (1970) は、*kəranəwa* 複合動詞と *wenəwa* 複合動詞の関係性を指摘したこと、*kerənəwa* 複合動詞を *kəranəwa* 複合動詞の疑似受動動詞として位置づけたこと、そして、*wenəwa* 複合動詞構文と *kəranəwa* 複合動詞の統語的類似性を指摘したことの3点に於いて、本研究の着想を導いた

¹⁾ 例文1) a)の *kəraa-wi* と 1) b)の *wee-wi* は、筆者の母語話者としての直感では、それぞれ *kəranəwa* と *wenəwa* のほうが正しい。

²⁾ 例文2) a)の *puluwan kəraa-wi* と 2) b)の *puluwan kəree-wi* は、筆者の母語話者としての直感では、それぞれ *purudu kəranəwa* の (慣らす) *purudu kerənəwa* (慣れる) のほうが正しい。

重要な先行研究である。ただ、*kəranəwa*と*wənəwa*と*kerənəwa*の3者間の関連性を直接的に論じているのではないこと、統語的分析は行われていても、意味論的分析がなされていないことの2点に於いて、更なる課題が残されている。

2.2 Gair (1998)

Gair (1998: 40) は、シンハラ語における最も一般的な複合動詞を作る動詞として、*kəranəwa*と*wənəwa*の二つの動詞を挙げている。そして、少なくとも3)の例を見る限り、*kəranəwa*複合動詞が意図的 (purposive) で能動的 (active) な意味を持ち、一般的に他動詞であるのに対し、*wənəwa*複合動詞は反射的 (reactive)、非人称的 (impersonal)³、非能動的 (inactive) な意味を持つと述べている (Gair 1998: 40)⁴。

- 3) a. *miniha maawa-t pissu keruwa.* (Gair 1998: 40)
 男 1.SG.ACC-も 狂気 する.PAST
 男が私も狂わせた。
- b. *maawə pissu wee-wi.* (Gair 1998: 40)
 1.SG.ACC 狂気 なる-だろう
 私は狂うだろう。

しかし、Gair (1998: 41) は*kəranəwa*複合動詞については、確かに意図的で能動的な意味を持ち、多くの場合で他動詞であると言うことが可能であるのに対し、*wənəwa*複合動詞については、必ずしも反射的、非人称的、非能動的になるとは限らないと述べ、*taraha kəranəwa* ([誰かを]怒らせる) を*wənəwa*複合動詞に変えた4)の例を挙げている。この動詞は意味的に制御可能性があり、能動的な自動詞であって非人称的でなく、また、意図的であって反射的ではない (Gair 1998: 41)。

- 4) *taraha wennə epaa.* (Gair 1998: 41)
 怒る なる INF PROH
 怒ってはいけない。

また、Gair (1998: 30) では、非人称動詞構文が意志性を伴わない場合があり、その例として5)の*kerənəwa*複合動詞文を示している。このような場合、動詞の示す動作は習慣的、自動的 (automatic)、或いは不本意である (Gair 1998: 30)。

- 5) *mee dawas-wələ maṭə wəḍə kerənəwa.* (Gair 1998: 30)
 この日々-GEN 1.DAT 仕事 する.PASS
 この数日間、私はただ習慣的に働いている。

³ シンハラ語において、非人称構文は非主格主語構文である。

⁴ 例文3) a)の*keruwa*と3) b)の*wee-wi*は、筆者の母語話者としての直感ではそれぞれ*watṭənəwa* (落とす) と*watənəwa* (落ちる) のほうが正しい。

Gair (1998) は、*wenəwa*複合動詞がその基本的な意味特徴として、反射的、非人称的、非能動的行為を表すことを示していることと、そのような特徴がない場合もあることを指摘している点で、Gair (1970) よりも意味論的な記述の発展が見られる。また、*kerenəwa*複合動詞を非人称動詞とし、習慣的、自動的、或いは不本意な行為を表していると指摘している点でも同様のことが言える。ただ、*wenəwa*複合動詞と*kerenəwa*複合動詞を、どちらも非人称動詞としながらも、両者を比較しながら、その違いや共通点について記述していない点で課題を残している。

2.3 最近の先行研究

kəranəwa, *wenəwa*, *kerenəwa*の各複合動詞に関する最近の研究の記述を見ると、筆者の知る限り、*kəranəwa*と*wenəwa*の二つの複合動詞の対比については盛んに行われているのに対し、*kerenəwa*についてはほとんど取り上げられていない。Chandralal (2002) では、与格主語構文をとる複合動詞 (conjunct verbs) として、*kəranəwa*複合動詞と、*wenəwa*複合動詞を取り上げ、その具体例として*kalpənaa kəranəwa* (考える) と*kalpənaa wenəwa* (考えられる)、*amatəka kəranəwa* (意志的に忘れる) と*amatəka wenəwa* (無意志的に忘れる) を挙げている。宮岸 (2007) では、シンハラ語の*kəranəwa*複合動詞と*wenəwa*複合動詞を比較し、他動詞と自動詞、或いは意志の有無で対立する場合があること、宮岸 (2018) では、それらの対立だけでなく、*kataa kəranəwa* (話す) と*kataa wenəwa* (賛成する) のような自他とも意志の有無とも考えられないペアが存在することを指摘している。宮岸 (2018) では、*kerenəwa*複合動詞を取り上げていても、*kəranəwa*複合動詞の受動動詞であるという指摘に留まっている。

以上のように、*kəranəwa*と*wenəwa*の二つの複合動詞の比較研究は、着実に進んでいる一方で、*kerenəwa*複合動詞の研究については、*wenəwa*複合動詞との共通性を指摘したGair (1970) と意志性の欠如を指摘したGair (1998) 以降、進んでいないのが現状である。そして、その結果として、類似性が認められる二つの非能動複合動詞、つまり*wenəwa*複合動詞と*kerenəwa*複合動詞との間の共通点と相違点が、具体的にどのようなものであるかが明らかにされていない。

3 研究の目的と方法

本研究は、二つの非能動複合動詞、*wenəwa*複合動詞と*kerenəwa*複合動詞の共通点と相違点を明らかにすることとである。

方法としては、まず、シンハラ語母語話者である共同執筆者の内省により、共通の前項要素を持つと判断できる*wenəwa*と*kerenəwa*の非能動複合動詞のペアを取り上げ、実際にインターネット上で検索できるものだけを分析の対象とした。次に、インターネット上で収集できた*wenəwa*と*kerenəwa*のそれぞれを非能動複合動詞の用例を、以下の手順により、分類・分析を行った。

- ①収集した用例の非能動複合動詞のペアにおける意味的差異の有無による分類
- ②個々の用例における非能動複合動詞の置き換え可能性による分類
 1. *wenəwa*複合動詞と*kerenəwa*複合動詞の間で置き換えができ、意味が同じもの
 2. *wenəwa*複合動詞と*kerenəwa*複合動詞の間で置き換えると、意味が異なるもの
 3. *wenəwa*複合動詞と*kerenəwa*複合動詞の間で置き換えができないもの
- ③上記の分類において、同じカテゴリーに入ったものに共通する特徴を見つけ、他のカテゴリーとの比較を行う。

4 調査結果

4.1 分析対象となった非能動複合動詞の前項要素

上記の方法により、非能動で対をなす複合動詞の前項要素として収集できたのは以下の48例である。なお、() は前項要素の意味であり、複合動詞としての意味ではない。

adhikṣaṇāyā (監督), *anumāta* (承認), *aṭṭeṣṣāa* (期待), *ayā* (課金),
avadhāraṇāyā (強調), *avabhāavitāa* (乱用), *avāsan* (終了), *aarā^mbha* (開始),
aavaraṇāyā (占有), *æti* (発生), *idi* (建設), *idiriṭṭa* (表出), *iwat* (除去, 離開),
utpāadaṇāyā (創出), *ekātu* (追加, 参加), *kaṭṭayutu* (活動), *kataa* (発話),
kriyaatmakā (機能), *gonu* (提起), *jaavaaram* (密売), *tahanam* (禁止),
tiiraṇāyā (決定), *diyūnu* (改善), *nikut* (放出), *niyojāṇāyā* (代表),
nirmaaṇāyā (産出), *ṭṭa* (任命), *ṭṭeṣṣāa* (明解), *ṭṭaṣṣāa* (言出),
ṭṭaṣṣāa (運送), *balaatmakā* (実施), *bhaajāṇāyā* (思索), *lak* (影響),
vaadaṇāyā (演奏), *vāḍḍa* (仕事), *vāyā* (支出), *vimarāṇā* (調査),
wimarāṇāyā (調査), *wiwrā* (公開), *wiṭṭā* (説明), *saṃkheetaṭṭa* (象徴),
saṃwardhāṇāyā (開発), *saṃwidhāṇāyā* (組織), *saṃsoodhāṇāyā* (修正),
samaajyāgāṭṭa (社会化), *sahatikā* (証明), *saakacchāa* (議論), *sidu* (実現)

4.2 非能動複合動詞のペア間の比較

4.2.1 意味的な差異が見られなかったペア

非能動で対をなす複合動詞において意味的な差異が見られなかった例の一部は、以下の通りである。

- 6) *idi wenāwa* (作られる) と *idi kerenāwa* (作られる)
- a. *ṭṭa janātaawa-tā innā puluwan udyāaṇāyā ṭṭa idi wenāwa.*
 一般 市民-DAT 居る できる 公園 も 建設 なる
 一般市民が使用できる公園も建設されている。
- b. *alut niwaasā idi kerenāwa.*
 新しい家 建設 される
 新しい家が作られる
- 7) *ṭṭa wenāwa* (発表される) と *ṭṭa kerenāwa* (発表される)
- a. *itiri kerenā mudal malaawi raajyāyee duṭṭa janātaawa wenuwen yodāwānā bāwa-t*
 残された お金 マラウイ州-GEN 貧しい 人々 ために 使わせる こと-も
ṭṭa wenāwa.
 発表 なる
 節約した資金をマラウイ州の貧しい人々のために使わせることも発表されている。

- b. *candayə piḷibadhawə labənə 10 /11 hoo 12 yanə dinə-wələ-dii prakaasə kerenəwa.*
 選挙 ついて 次の 10 11或いは 12 目 日-PLに 発表 される
 選挙について10日・11日・12日に発表される。

- 8) *aara^mbhə wenəwa* (始まる) と *aara^mbhə kerenəwa* (始まる)

- a. *mee roogə lakšənyan matu wuu awəsthaawe siṭə moləy-ee sailəyan winaaśə wiimə*
 この 病気 特徴 現れた 時 から脳-GEN 細胞 破壊
aara^mbhə wenəwa.
 開始 なる
 この症状が現れた瞬間から、脳細胞の破壊が始まる。
- b. *siyəlumə wiśwəwidyaalə-wələ adhyəyənə kaṭəyutu labənə 17 wəni san˘dudaa dinə*
 全ての 大学-PL.GEN 学術 活動 来週 17日 月曜 日
aara^mbhə kerenəwa.
 開始 される
 すべての大学での学術活動は17日月曜日に始まる。

4.2.2 意味的な差異が見られたペア

非能動で対をなす複合動詞において、意味的な差異が見られた例は、以下の通りである。

- 9) *əti wenəwa* (生じる) と *əti kerenəwa* (生じる)

- a. *dum biimə heetuw-en tiyūnu maanəsikə roogə əti wenəwa.*
 煙草 飲むこと 理由-ABL 急性の 精神 病気 発生 なる
 喫煙により、急性の精神疾患が生じる。
- b. *awəśyə dhanaatməkəwū situwili əti kerenəwa.*
 必要な 前向きな 考え 発生 される
 必要な前向きな考えが生まれる。

- 10) *sidu wenəwa* (起こる) と *sidu kerenəwa* (行われる)

- a. *taruṇə ayə tawə awurudu 20 k-in barəpətələ roogə-wələ-tə mūnadenna sidu wenəwa.*
 若い 者 後 年 20-ABL 深刻な 病気-PL-DAT遭遇 実現 なる
 20年後、若者は深刻な病気に罹る。
- b. *auśaadhə niwəsə-tə bedaahəriimə kramə dekəkə-tə sidu kerenəwa.*
 医薬品 家-DAT 配達 方法 2つ-DAT 実現 される。
 医薬品の宅配は2つの方法で行われる。

- 11) *diyūnu wenəwa* (発展する) と *diyūnu kerenəwa* (開発される)

- a. *ugatun buddhimətun siṭinə rata-k, samaajəya-k diyūnu wenəwa.*
 教育を受けた 知識人 いる 国-IND 社会-IND 改善 なる
 教育を受けた賢い人々がいる国や社会は発展する。

- b. *kankasantur-ee waraayə diyunu kerenəwa.*
 カンカサントラ-GEN 港 改善 される
 カンカサントラの港が開発されている。
- 12) *saməjəgətə wenəwa* (社会化する) と *saməjəgətə kerenəwa* (拡散される)
- a. *yahapat nirmaanəkəru-wo nihaⁿda wuṇaamə harəsun dee samaajəgətə wenəwa.*
 良い 作家-PL 沈黙 なる と 不要な こと 社会化 なる
 善良な作家たちが沈黙すると、不要なことが社会に生じる。
- b. *samaajə maadhya awəbhaawitəyə magin wærədi torəturu samaajəgətə kerenəwa.*
 社会 メディア 悪用 よって 誤った 情報 社会化 される
 ソーシャル・メディアの悪用によって、誤った情報が拡散される。
- 13) *pat wenəwa* (なる) と *pat kerenəwa* (任命される)
- a. *pratiḥaləyə gəna sēhiimə-tə pat wenəwa.*
 結果 ついて 満足-DAT 任命 なる
 結果について満足している。
- b. *raajyə amaatyamśə leekamwar-un sabhaapətiwar-un saha wenat ewənnan*
 国 省庁 大臣-PL 議長-PL そして他の 人々
pat kerenəwa.
 任命 なる
 国務大臣、議長などが任命される。
- 14) *ekātu wenəwa* (加わる) と *ekātu kerenəwa* (加えられる)
- a. *godaak minissu owun-tə ekātu wenəwa.*
 多くの 人々 それら-DAT 追加 なる
 多くの人々がそれらに参加する。
- b. *gangaawan-tə rasaayənikə drawyayə ekātu keriiima*
 河川.PL-DAT 化学 物質 追加 されること
 河川に化学物質が流されること
- 15) *samwidhaanəyə wenəwa* (組織する) と *samwidhaanəyə kerenəwa* (組織される)
- a. *idiri kaaləyedii api samwidhaanəyə wenəwa.*
 将来的に 私達 組織 なる
 将来的に私たちは組織化していく。
- b. *chandə wiməsiimə saarthəkəwə sidu kiriimə saⁿdəhaa awəśyə kərənə kaṭəyutu*
 選挙 成功させること ため 必要とする 活動
samwidhaanəyə kerenəwa.
 組織 される
 選挙を成功させるために必要な活動が組織化されている。

- 16) *sahatikə wenəwa* (保証する) と *sahatikə kerenəwa* (守られる)
- a. *ahoosi kərannee nəæ. məm̄ sahatikə wenəwa.*
 廃止する-INF NEG 1.SG 保証 なる
 廃止することはない。私は保証する。
- b. *sadaacaaraatməkə bəwə sahatikə kerennee siyə pratipatti haa gaurəwaanwitə*
 道徳的な こと 保証 される-INF 自分の 考え と 特権的
jiiwitə śailiyə nisaa-yi.
 生活 様式 ため-だ
 自分の主張と特権的生活のために、道徳が守られる。
- 17) *iwat wenəwa* (去る) と *iwat kerenəwa* (奪われる)
- a. *aanduw-en iwat wenəwa.*
 政府-ABL 除去 なる
 政府を去っている。
- b. *paraajəyətə pat mantriwar-un-gee aarakšaawə iwat kerennee mehemə-yi.*
 敗北-DAT なる 国会議員-PL-GEN 安全 除去 される-INF このよう-だ
 このようにして、敗北した国会議員の安全が奪われるのだ。

4.2.3 互換性の調査

4.2.3.1 互換しても意味が変わらない例

非能動複合動詞において、*kerenəwa* と *wenəwa*との互換性が認められ、意味の違いも見られなかった例の一部は、以下の通りである。

- 18) *dharməyə tuḷə budurəjaanan wahansee-gee gunə wistərə (kerenəwa / wenəwa)* .
 ダルマ (法) 中 仏 様-GEN 特質 説明 (される / なる)
 ダルマの中で仏様の特質が説明されている。
- 19) *alut niwaasə idi (kerenəwa / wenəwa)* .
 新しい家 建設 (される / なる)
 新しい家が作られる。

4.2.3.2 *wenəwa* と *kerenəwa*と入れ替えると意味が変わる例

非能動複合動詞において、*kerenəwa*と*wenəwa*との間で入れ替えると意味の違いが見られた例の一部は、以下の通りである。

- 20) *paraajəyətə pat mantriwar-un-gee aarakšaawə iwat (kerenn-ee / wenn-ee) mehemə-yi.*
 敗北-DAT なる 国会議員-PL-GEN 安全 除去 (される / なる-INF) このよう-だ
 このようにして、敗北した国会議員の安全が (奪われる / なくなる) のだ。

- 21) *aanḍuw-en iwat (kerenāwa / wenāwa)* .
 政府-ABL 除去 (される / なる)
 政府から (離されている / 去っている)。

4.2.3.3 互換が不可能な例

非能動複合動詞において、*kerenāwa*と*wenāwa*との間で入れ替えることができなかった例の一部は、以下の通りである。

- 22) *pratiphələyā gəwə səæhiimə-tə pat* (○*wenāwa* / ×*kerenāwa*) .
 結果 ついて 満足-DAT (○なる / ×される)
 結果について満足している。
- 23) *ahoosi kərənn-ee nəæ. mām sahatikə* (○*wenāwa* / ×*kerenāwa*) .
 廃止する-INF NEG 1.SG 保証する (○なる / ×される)
 廃止することはない。私は保証する。

5 考 察

以上の結果を踏まえて考えられることは、次のとおりである。まず、意味的な差異が見られなかったペアのうち、6 a,b) と7 a,b) のペアはそれぞれ文中には現れない動作主が想定できる点でaとbの間に違いが見られない。それに対し、8 a) と8 b) の間では、わずかな違いではあるが、aは自然に起こる開始の現象であるのに対し、bは誰かの意志的な判断による開始であるという点で異なっている。実は6 a,b) と7 a,b) のそれぞれについても、事実関係として違いはないものの、言語表現としての捉え方には母語話者の直感として違いがあるように思われる。つまり、6) aと7) aは、それぞれ動作主の存在が漠然としているのに対し、6 b) と7 b) は、動作主の存在が明確に意識されていることである。

次に意味的な差異が見られたペアを見てみると、9 a), 10 a), 11 a), 12 a), 13 a), 14 a), 15 a) の*wenāwa*補助動詞を持つ例は、いずれも意志を伴わない自然に起こる現象である。それに対し、9 b), 10 b), 11 b), 12 b), 13 b), 14 b), 15 b) の*kerenāwa*複合動詞を持つ例は、意志のある、誰かによってもたらされた状態である。

また、意味的な差異が見られたペアの中でも16 a), 17 a) についてはどちらも、主語が自分の意志で決める行動であるのに対し、16 b) と17 b) は、いずれも主語が誰かの意志によりもたらされる状態を表している。

また、*kerenāwa*と*wenāwa*の互換性の調査のうち、互換しても意味が変わらないものは、18) については本当に意味的な差異が感じられないのに対し、19) については動作主の存在が*kerenāwa*では感じられ、*wenāwa*では感じられなかった。

wenāwa と*kerenāwa*と入れ替えると意味が変わる例については、20) 21) のどちらも*kerenāwa*の場合、他者からの影響で生じる事態であるのに対し、*wenāwa*の場合は、20) が自動的に生じる事態である一方、21) は動作主の主体的な動作であった。

*kerenāwa*と*wenāwa*との間で互換が不可能な例について、22) 23) はいずれも*wenāwa*から*kerenāwa*への置き換えができないものであった。この理由として22) ではまず*pat wenāwa* (な

る)に対する*pat kəɾənəwa* (任命する) がもともと意味の異なる別の動詞であるために置き換えができないことが考えられる。また、「満足する」という人間の心理状態は、それが向けられる状況・状態の対象に対し、個々人の中にある基準により生まれるもので、そもそも内発的な状態変化としてしか捉えることができないということも理由として考えられる。このような理由は23)の「保証する」で*kerənəwa*を用いることが出来ないことにも適用できる。

以上の事から、*kerənəwa*は一貫して、意志を持った他者によりもたらされた状態を表すのに対し、*wənəwa*は意志の有無に関わらず、被動者の自主的・自発的な動作や状態変化を表していると考えられる。

6 ま と め

以上、本論での調査とその結果を考察したことにより、以下のように結論付けることができる。

*kerənəwa*複合動詞: 外的な要因による状態を表す非能動動詞

*wənəwa*複合動詞: 内発性による動作・状態を表す非能動動詞

7 お わ り に

今回のデータはインターネットのニュースに限定したため、文体的に偏りがあり、特に口語体のシンハラ語については検証できなかった。今後は、複数のシンハラ語母語話者に直接聞き取り調査を行い、口語シンハラ語についても調べていきたい。また、*kəɾənəwa*複合動詞のペアになる複合動詞について*wənəwa*複合動詞しかないもの、或いは*kerənəwa*複合動詞しかないものがあるのか、それぞれのグループに何らかの意味的な共通性が見られるのか調べてみたい。そのほか、他動詞と自動詞の関係性についても調べてみたい。

略語

1 : 1人称, 2 : 2人称, ACC: 対格, DAT: 与格, GEN: 属格, INF: 不定詞,
PASS: 受動 PAST: 過去, PROH: 禁止, SG: 単数

引 用 文 献

1. Chandralal, Dileep (2002) Dative Subject Construction and its Conceptual Representation. 『沖縄大学人文学部紀要』第3号 p.13-34.
2. Gair, James W. (1970) *Colloquial Sinhalese Clause Structures*. The Hague: Mouton.
3. Gair, James W. (1998) *Studies in South Asian Linguistics, Sinhala and other South Asian Languages*. New York and Oxford: Oxford University Press.
4. 宮岸哲也 (2007) 「日本語の「する」とシンハラ語の「karanawaa」について」, 『国語国文論集』第37号, 安田女子大学日本文学会, p.1-8.
5. 宮岸哲也 (2018) 「シンハラ語のナル表現について」, 『日本認知言語学会論文集』第18巻, p.627-632.